



# 排出量を削減し、公共空間を取り戻すためのカーシェアリング

## ドイツ・自由ハンザ都市ブレーメン

### 概要

2009年に世界初の自治体によるカーシェアリング行動計画を策定して以来、ブレーメン市ではカーシェアリングのアクティブユーザー数が2万2,000人を超えるまでになった。7,000人を超える利用者が車を手放し、他の用途のために道路空間を譲っている。また、ブレーメン市では、GHG排出量の削減と持続可能な交通手段への移行が進んでいる。

### 出発点とビジョン

ブレーメン市は、市民の25%が徒歩で、さらに25%が自転車で移動するアクティブモビリティの街である。ブレーメン市にとって、交通渋滞を緩和し、排出ガスを削減するための重要な交通手段である。しかし、道路空間の過剰な使用を引き起こす車の所有は依然として問題である。ブレーメン市の持続可能な都市モビリティ計画(Sustainable Urban Mobility Plan; SUMP)は、徒歩、自転車、統合的公共交通サービスを組み合わせることで、車の所有の代替となる選択肢を提供している。

カーシェアリングは、モビリティを制限することなく自家用車の台数を減らすためのツールである。ブレーメン市内のカーシェアリング利用者の8割は車を所有していない。ブレーメン市は長年にわたりカーシェアリングを推進してきた先駆者であり、2015年にSUMP賞を受賞した市のSUMPにおける重要な要素として取り上げている。この施策は排出量を抑えつつ空間効率も良いモビリティを支援し、道路空間の再生を図るために自動車から非自動車や公共交通機関へ、オーナーシップからユーザーシップへの移行を目指している。



ブレーメンのマルチモーダルなモビリティミックスの一環としてのカーシェアリング・ステーション © Michael Glotz-Richt

### ドイツ・自由ハンザ都市ブレーメン:



UNESCO 世界遺産に指定されているブレーメン市の中心部 © Michael Glotz-Richter

<p><b>人口:</b> 569,352 人 (2019年)</p>	<p><b>面積:</b> 325.56 km<sup>2</sup></p>
<p><b>首長誓約署名年:</b> 2008年</p>	<p><b>CO<sub>2</sub> 排出削減目標</b> 2030年までに60% (1990年)、2038年までに炭素中立 首長誓約による排出量削減目標: 2030年までに40%</p>

## ブレメン市の取り組み

ブレメン市では、1990年に環境対策としてカーシェアリングが始まり、市場原理を応用した事業として発展してきた。1998年、ブレメン市は、公共交通機関とカーシェアリングを組み合わせた初のサービス(Bremer Karte plus AutoCard)を開始した。

市と交通システムにとっての利点を踏まえ、ブレメン市は2009年に世界初の自治体カーシェアリング行動計画を策定し、その後も政策やプロジェクトを進めている。この計画には以下の行動が含まれている。

- mobil.punkteとmobil.pünktchen(一般利用が可能なカーシェアリング・ステーション)のネットワークの拡大
- 新たな住宅開発におけるカーシェアリングの導入
- 公共交通手段とカーシェアリングの統合
- 企業や公共機関による車両管理へのカーシェアリングの導入
- 広範なPR活動

ブレメン市のカーシェアリング政策が成功を収めている主な理由の一つとして、新しいモビリティ拠点の計画立案に際してステークホルダーの参加に多額の投資を行っている点が挙げられる。カーシェアリングの構想策定には、SUMPに完璧に組み込むために自治体、公共交通機関などの公共企業体、そして運営者である地元の民間企業が参加していた。

住民にその意味を説明する必要もあったが、プロジェクトの機能、コスト、実用性を住民に案内することでその必要性を満たした。プロジェクトでは、社会全体にとってのカーシェアリングの利点を徹底的に強調するため、常に事業者を中立に扱ったコミュニケーション・キャンペーンを展開してきた。このコミュニケーション・キャンペーンの主要な例の一つに、「Use it. Don't Own It.(持たないで、使おう)」の頭文字を持つ名前に持つキャラクター「Udo」である。

## 成果

ブレメン市のカーシェアリング行動計画で掲げられていた目標の一つが、2020年までにアクティブなカーシェアリング利用者を2万人に増やし、道路を走る自動車を5,000台減らすことであった。ブレメン市は2022年にその目標を達成し、カーシェアリング利用者は22,000人を超えた。ブレメン市におけるカーシェアリングの影響について2018年に発表された[最終報告書](#)を作成する際に行われた利用者調査からは、カーシェアリング・サービスがなければ街にはさらに7,000台の車があり、それにより35km以上に相当する道路空間が使用されていたであろうことが明らかになった。

また、カーシェアリング利用者は徒歩や自転車、公共交通機関などの持続可能な交通手段を頻繁に利用する傾向にあり、それがGHG排出量の削減や自動車の必要性の減少につながることも示された。実際、ブレメン市のカーシェアリング利用者の80%が自家用車を所有していない。カーシェアリング利用者は市内の住民地区や中心部で買い物を済ませることが多く、郊外のショッピングモールにはあまり行かない傾向にあるため、地域の都市経済に直接影響を与えている。

## 主要データ

アクティブなカーシェアリング利用者は **21,000人以上** (2022年)

代替された車は **6,000台**  
- 30 km 分の道路空間に相当

**135カ所以上**あるステーションで  
**400台以上**の車のシェアリングが可能

~**1/3** 自家用車を使用していない  
カーシェアリング利用者の割合



## プロジェクトの資金調達

- カーシェアリングの普及と公道での mobil.punkt ステーション設置のための資金源には、市の財源や以下の欧州プロジェクトが含まれる。  
CIVITAS Vivaldi  
Moses (FP5)  
Momo (Intelligent Energy for Europe)  
CARE-North (Interreg North Sea)  
SHARE-North
- ステーションや意識向上活動のためにかかる費用:  
年間 5万~10万ユーロ

## 次のステップと再現可能性

ブレーメン市のカーシェアリングは、CARE-NorthやSHARE-NorthといったNorth Sea Interregプロジェクトなどの欧州プロジェクトを通じて、再現性を高めるために多くの都市と共有されている取り組みである。

ブレーメン市の例の主な成功要因は、サービスの信頼性とカーシェアリング・ステーションの近さである。自治体は、カーシェアリング・ステーション用に道路空間を提供することでその魅力を高めている。したがって、ブレーメン市は、道路空間管理およびモビリティ管理の一環として、ステーションのネットワークをさらに拡大していく予定を立てている。

ブレーメン市のカーシェアリング行動計画は[ハント市](#)の青写真となっており、さらに他の多くの都市にもインスピレーションを与えている。現在では、アーヘン、エアランゲン、フュルト、ケンプテン、レーア、ニュルンベルク、ロストックといったドイツの各都市でもmobil.punkteが一般的に見られるようになっている。また、ブレーメン市のデザインは[ノルウェーのベルゲン市にあるモビリティ拠点](#)でも再現されている。



### 連絡先

プロジェクトの詳細につきましてはこちらまでご連絡ください:  
Michael Glotz-Richter, Senior Project Manager for Sustainable Mobility, City of Bremen  
mailto:michael.glotz-richter@umwelt.bremen.de  
[michael.glotz-richter@umwelt.bremen.de](mailto:michael.glotz-richter@umwelt.bremen.de)

### 参考リンク

- ▶ [最終報告書「ドイツ・ブレーメン市におけるカーシェアリングの影響分析」\(2018\)\(pdf\)](#)
- ▶ [Share North プロジェクト \(欧州のシェアード・モビリティ・プロジェクト\)](#)
- ▶ [ブレーメンにおける 20,000 人のカーシェアリング・ユーザーに関する記事, Share North \(2021\)](#)
- ▶ [UDO \(Use it - don't own it\) カーシェアリングの長編 CM](#)
- ▶ [ハントとミラノが国際カーシェアリング賞を受賞](#)
- ▶ [シェアード・モビリティ: 低炭素文化の一環\(pdf\)](#)
- ▶ [ベルゲン - モビリティ拠点、排出量削減、国境を超えた学習に特化した街](#)